

日本光学会平成 19 年度第 183 回幹事会議事録

日 時： 2008 年 1 月 30 日(火) 13:30~17:10

場 所： 機械振興会館地下 3 階研修 2 号室

参加者： 伊東幹事長，他 50 名

議 事：

1. 平成 19 年度第 2 回常任幹事会議事録の確認

- ・第 2 回常任幹事会議事録は承認された。

2. 幹事選挙結果報告

- ・幹事選任の選挙の結果，幹事会推薦候補者 25 名全員が選出されたことが報告された。

3. 次期幹事長選挙

- ・幹事長が推薦する恒例に従い，伊東幹事長から宇都宮大学の谷田貝教授が推薦された。干渉計測法をはじめとして豊富な光学の知識と豊かな国際経験から，日本光学会の幹事長に適任であるとの推薦理由が説明された。
- ・その後の選挙により，出席した来年度幹事 26 名全員からの得票により，谷田貝教授が次期幹事長に選任された。

4. 次期幹事役職審議

- ・次期幹事役職(案)が提示され，審議の結果，全役職が承認された。

5. 報告事項

5-1. 「光学」関連報告

(1) 「光学」編集報告

- ・発刊作業の進捗が報告され，例年通りであることが報告された。昨年はカラーページが少なかったことが報告された。

5-2. 「OPTICAL REVIEW」関連報告

(1) 「OPTICAL REVIEW」編集報告

- ・掲載および投稿論文状況が報告された。投稿論文について，幹事から周囲に投稿を促すよう要請があった。

(2) 「OPTICAL REVIEW」出版報告

- ・Springer への OR 冊子発送を，プロモーションのため，従来の 50 部から 110 部に増やしたい旨の連絡があり，1 月号から増やしたことが報告された。
- ・次期出版副委員長の候補に，東京工芸大学の中楯教授が推薦され，承認された。
- ・入会勧誘のしおりに，会員は OR のオンライン版を無料で利用できることを記載するよう，広報担当幹事へ要請された。また，特別会員 B, C と，OR を購読する賛助会員には，組織としてオンライン版を利用可能になると

の記載も検討するよう要請された。

5-3. 講演会関連報告

(1) 第 41 回サマーセミナー収支報告

- ・収支決算が示され，日本光学会負担金が 14 万円となったことが報告された。応用物理学会の活動支援補助金として 10 万円が支払われた。

(2) 平成 19 年度電気関係学会北陸支部連合大会収支報告

- ・収支決算が報告された。来年度から講演申込金を減額し，会員へ還元する方針が報告された。

(3) 平成 19 年度関西講演会結果報告

- ・11 月 22 日，島津マルチホールにてデジタルホログラフィーをテーマに開催し，参加者数が 46 名と盛況で，活発な質疑応答がなされたことが報告された。

(4) 第 41 回光学五学会関西支部連合講演会結果報告

- ・1 月 26 日に大阪市立大学文化交流センターにて「現代生活と光」をテーマに開催し，参加者数が 70 名で，有意義な講演会であったことが報告された。
- ・入会案内の印刷，配布により会員の勧誘をしたことが報告された。

(5) Optics & Photonics Japan 2007 結果報告

- ・11 月 26~28 日に大阪大学コンベンションセンターで開催されたことが報告された。講演件数は 317 件と例年通りで，OPJBP 賞セッションが 91 件と多く，参加者は 690 名と増加傾向であり，非常に盛況であったと報告があった。収支決算書が報告され，参加者アンケートの結果が配布された。
- ・会員増への取り組みとして他学会との共催シンポジウムを数件実現し，その会場で会員募集も行ったことが報告された。また，日韓交流シンポジウムを独立に開催したことが報告された。

(6) Optics & Photonics Japan 2008 進捗報告

- ・開催日は 11 月 4~6 日を予定しており，会場としてつくば国際会議場を仮予約済みであるとの報告があった。日韓交流シンポジウムは OPJ の中で開催することが望ましく，早めに検討を開始すべきであるとの意見が出された。
- ・プログラム委員と，他の関係者との意思疎通が徹底していないため，7 月の打ち合わせに全員を招集するべきであるとの意見が出された。

(7) カラーフォーラム JAPAN 2007 結果報告

- ・11 月 27~29 日で開催され，発表件数も参加者も例年よ

り多く、盛況であったことが報告された。

(8) 第3回光応用新産業創出フォーラム結果報告

・12月14日、慶応大学にて開催されたことが報告された。参加者数は68名で、産学官連携を踏まえて講師を選び、魅力あるテーマを選択したことがよかったと報告があった。

(9) 第34回冬期講習会結果報告

・1月10、11日に東京大学にて、デジタル一眼レフをテーマに開催されたと報告があった。学生が少なかったが、カメラメーカーからの参加が多く、非常に盛況であったことが報告された。

(10) 平成19年度北海道地区学術講演会結果報告

・1月10、11日に開催され、92件の発表があり、参加者数は145名と非常に盛況であったことが報告された。

(11) 平成19年度名古屋講演会結果報告

・1月23日、高出力固体レーザーについて開催され、3件の講演に30名が参加し、有意義な講演会であったとの報告があった。

(12) 第33回光学シンポジウム進捗報告

・日程が確定し、招待講演もすでに6件が確定し、準備が順調であることが報告された。予算案が提示され、承認された。

5-4. その他報告事項

(1) 協賛依頼について

・7件の協賛依頼が承認された。また、平成19年度応用物理学会関西支部シンポジウムより協賛の礼状が届いた旨が報告された。

(2) 会員動静について

・2007年12月末日での会員動静が示され、会費滞納による退会により、個人会員数が59名減少したと報告された。例年同様であるが、長期的にみると単調減少であることが報告された。

(3) 収支計算書について

・2007年1月1日から11月31日までの収支計算書が示された。
・請求書の処理は、日本光学会の会計を必ず通すことを徹底するよう幹事に対して依頼された。

(4) 平成19年度日本光学会総会日時について

・3月28日の論文賞授賞式にぜひ参加いただきたいと要請があった。光学論文賞は応用物理学会の中でも歴史と由緒ある賞であり、通例として応用物理学会の会長から授与されると紹介があった。

(5) 広報について

・「光学」とホームページ掲載方法に関する変更の報告が

あった。掲載内容の変更、ならびにホームページ掲載のガイドラインの明記などが変更内容であった。

(6) 日本光学会新ロゴについて

・会員選挙を経てロゴマークが決定し、2008年の「光学」第1号から使用していると報告された。
・印刷物などには新しいロゴマークを利用するよう要請があり、電子ファイルと使用のガイドラインを日本光学会事務から取り寄せるよう連絡があった。

(7) JOEM 奨励賞副賞辞退について

・1992年から16年間にわたり、日本オプトメカトロニクス協会 (JOEM) から光学奨励賞の副賞が提供されていたが、辞退の依頼があったと報告された。了承して、感謝状を送付したと報告があった。

(8) OPJ-BP 賞結果報告

・選考委員会の48名による審査の結果、応募講演91件から、5件が選出されたと報告があった。

(9) 光学論文賞結果報告

・選考委員会の10名による審査の結果、応募14件のうち、2件に決定し、応用物理学会に報告したと報告があった。

(10) 会員制度委員会報告

・評議会と代議員制度の検討の進捗が報告された。幹事会以外の意見が入り得る軽い体制が望ましいとの考えから、アドバイザーグループ (仮称) の設置の私案が提示された。
・フェロー制度についても検討の進捗が報告された。昨年応用物理学会でフェロー表彰を導入したばかりであるため、当面はそのフェロー表彰の状況を注視し、必要に応じて再検討するとの私案が提示された。功労会員の考え方について、会費免除やシニア会員のあり方などが議論された。

(11) 500人会員増委員会報告

・500人増計画について、5年間に500人の会員数増を達成するために、魅力ある日本光学会の方向性、入会システムと、広告や勧誘などを通じた会員増などについて報告があった。
・未入会であるが、光学に関係のある研究を行っている方を勧誘することが要請された。また、立場の弱い方への強引な勧誘はしないことなどが提案された。
・日本光学会に入ることの利点をぜひ検討するべきではないかとの意見が出された。

(12) 日韓交流シンポジウム開催報告・SPIEとのMOU継続報告

・11月27日に大阪大学にて開催され、参加者数が約60

名と盛況であったことが報告された。OPJ 実行委員会とプログラム委員会に感謝の意が伝えられた。アジアとの結びつきを強化することは時代の流れであり、国際セッションなどを積極的に開催していくべきであると幹事長から意見が出された。

- SPIE との交流協定の署名式が 11 月 27 日にあり、協定を継続したとの報告があった。署名式で光学シンポジウム協賛を依頼し、合意が得られたと報告があった。

6. 審議事項

(1) 平成 20 年度活動計画 (案)

- 平成 20 年度年間計画 (案) が提示された。

(2) 日本光学会ホームページについて

- アクセス状況が示され、通常通りであるとの報告があった。
- Web 広告について報告があり、依頼先候補として 2 社が残ったことが報告された。検討して、次回以降審議することとなった。

(3) 第 42 回サマーセミナーについて

- 経緯と検討結果の報告があり、担当幹事で新たな案を複数検討したが絞りきれず、昨年と同じ 1 泊 2 日の開催方式が提案された。次回以降も引き続いて、検討を継続することとなった。
- 前々回の幹事会で承認された実行委員 4 名体制について、2 名増員の選任方法について議論がなされた。アドバイザーの協力について提案があり、伊東幹事長に決定した。

(4) カラーフォーラム JAPAN 2008 について

- 光学四学会で主催しており、今年は日本光学会が担当して委員長を選任するとの報告があった。
- 色彩関係の先生にお願いする方向で検討していると報告された。

(5) 電気関係学会北陸支部連合大会「優秀論文発表賞」の新設運用案について

- 賞の目的、選考方法、および表彰内容などに関する具体的な提案があった。次回以降に審議することとなった。

(6) Wikipedia について

- 前回の常任幹事会での決定を受け、すでに「日本光学会」の項目が作成されているとの報告があった。日本光学会ホームページへの外部リンクを光学関連項目に対して貼るなどの活動内容が了承された。

(7) 国際協力支援金規定について

- これまでの幹事会で内規の大筋の了承を得ており、また今年度は国際会議開催支援金と、欧文誌投稿料支援金が予算化されているとの報告があった。

- 小さい規模の会議体を意識して、支給金額が小さい別の条件を設定してはどうかとの意見が出された。

(8) 産学官連携、奨励金制度の提案について

- 日本光学会産学官連携委員会より、コニカミノルタ画像科学振興財団からの寄付を活用する「新産業創出に向けた独創的な研究への奨励金制度 (仮称)」の提案があり、概要が報告された。継続検討し、次回以降審議することとなった。

(9) ロシア光学会との協定および SPIE からのイベント予告掲載依頼について

- ロシア光学会との交流協定の交渉を始めたいとの提案があり、承認された。
- 韓国光学会との交流協定が 2008 年末で失効するが、更新手続きを現状ベースで進めることが提案され、承認された。
- SPIE から、両学会の会誌に行事の相互掲載の提案があり、両学会誌の編集長で対応することが承認された。

(10) レーザーディスプレイ研究グループについて

- 新しい研究グループの背景、組織構成 (案)、予算 (案)、活動計画 (案) などが提示され、設立が承認された。黒田教授が代表幹事を務める。

平成 19 年度第 3 回常任幹事会

2008 年 3 月 21 日 (金) に応用物理学会会議室において開催されました。「OPTICAL REVIEW」編集・出版報告、OPJ 2007 収支報告、第 34 回冬期講習会収支報告、第 41 回光学五学会関西支部連合講演会収支報告、第 33 回光学シンポジウム進捗報告、OPJ 2008 進捗報告、「光学」編集報告等がなされました。また、協賛依頼、会員動静、収支計算書、研究グループ活動、日本光学会新ロゴマーク、産学官連携、奨励金制度の提案、会員制度委員会、500 人会員増委員会について報告がなされました。さらに、国際協力支援金規定 (案)、総会資料 (事業報告・会計報告)、研究グループ補助金申請、日本光学会ホームページ、入会のしおり、第 42 回サマーセミナー、論文賞規定・選考規定の改定、研究グループ内規、平成 20 年度活動計画について審議がなされました。なお、詳しい幹事会議事録は第 37 巻第 7 号に掲載予定です。

平成 19 年度総会

平成 19 年度総会は、2008 年 3 月 28 日 (金) に日本大学理工学部船橋キャンパスにおいて開催された。

まず、伊東一良幹事長より挨拶に代えて、日本光学会の今年度の動きの概要について説明があり、その後、津村徳

道庶務幹事，石橋爾子会計幹事，菅谷綾子会計幹事から，平成19年度の本会のおもな活動の報告と次年度の計画が説明された。また，約3年間日本光学会の事務を担当され，2008年4月末に退職される酒井美弥子さんに，幹事長から感謝の言葉が贈られた。5月からは，新任の池田美穂子さんが光学会の事務を引き継ぐ。

本会は，光学に関する研究の推進および技術の向上をはかるという比較的恒久的な目的をもっているが，一方で機関誌や学術誌の発行，学術講演会の開催などを介して，急激に変化する現代社会と密に接している。このため，常に改革が求められる。平成19年度は，Web広告の検討をはじめ，いくつかの小規模な改革が進められた。担当幹事の方々の熱心な取り組みの結果，年度末近くには日本光学会のロゴマークの改訂が完了し，「入会のしおり」が刷新された。会員に満足感を与える魅力的な存在であることを目指して，会員増のプランや会員制度・組織改革の検討も進行中である。

以下では，平成19年度の本会のおもな活動を振り返る。Optics & Photonics Japan 2007が大阪大学コンベンションセンターにおいて，「彩りと輝きとともに」と題して，11月26～28日の3日間開かれた。講演件数は317件とほぼ例年通りであったが，参加者は合計690名と増加傾向にあった。OPJBP賞セッションへの参加が91件と多かったことも特徴的である。国際シンポジウムとして位置づけられた日韓交流シンポジウムが同時に開催され，韓国光学会から2件，日本光学会から3件の光設計技術を中心とした講演が行われた。また，スペシャルセッションでは，国際光工学会（SPIE）会長，Brian Culshaw博士の講演も行われ，その後の昼食会では，両学会の協力関係を記した覚書の交換と調印が行われた。

第32回光学シンポジウムは，7月5，6日の2日間，東京大学生産技術研究所のコンベンションホールで，「光学システム・光学素子の設計，製作，評価を中心として」と題して開かれた。また，カラーフォーラム2007は，11月27～29日の3日間，工学院大学で開催された。このほか，北海道地区学術講演会，関西講演会，名古屋講演会，第40回光学5学会関西支部講演会，電気関係学会北陸支部連合大会などが例年通り各地区で開催された。

第33回冬期講習会「光診断と光治療の最前線」が，2008年1月10，11日の2日間，東京大学本郷キャンパス山上会館大会議室で開かれ，光トモグラフィや分光・蛍光測定をはじめとする光診断技術や眼科・歯科・消化器外科の臨床現場に直結する光治療の新たな展開についての講演が行われた。また，第41回サマーセミナーが，8月27，

28日の2日間にわたって富士教育研修所で開催された。大津元一教授（東大）の基調講演の後，光とナノスケールの世界の問題を中心に講演が行われ，恒例のナイトセッションも開かれた。サマーセミナーについては，その意義や今後の開催方式など，基本的な議論が幹事会において続けられている。また，産学官連携委員会が企画した第3回光応用新産業創出フォーラムが，慶應義塾大学三田キャンパス北館ホールにおいて，12月14日に開かれた。

出版関係では，「光学」第36巻第4号～第37巻第3号（計12号），「OPTICAL REVIEW」Vol. 14 No. 2～Vol. 15 No. 1（計6号）が出版された。「OPTICAL REVIEW」に関しては，シュプリンガー・ジャパン株式会社との覚書が，著作権，ロイヤリティ等に関する修正の後に更新された。

本年度の光学論文賞受賞者は，高橋栄治氏（理化学研究所）と成瀬誠氏（情報通信研究機構）に，また日本光学会奨励賞は，山本和広氏（情報通信研究機構）と山口堅三氏（徳島大学）に授与された。年次学術講演会であるOPJ 2007においては，Optics & Photonics Japan ベストプレゼンテーション賞が石島玲華氏（電気通信大学），桑原光巨氏（大阪大学），林靖之氏（東京大学），牧野貴雄氏（千葉大学），南川丈夫氏（大阪大学）の5名に授与された。

なお，日本光学会の平成19年度事業および平成19年度の計画等に関する情報は，第37巻第7号の「日本光学会平成19年度年次報告」の中に詳細が公開される予定である。

第238回「光学」編集委員会

2008年3月18日（金）に，応用物理学会会議室において開催されました。第37巻第12号および第38巻第1号の企画決定，第38巻第2，3号の第二次構想案，第38巻第4，5号の第一次構想案の審議，第38巻第6，7号の号担当の決定が行われました。その後，報告および審議事項を経て，論文投稿・審査状況についての報告，各号の進捗状況の報告，会計の報告，幹事会の報告がなされました。

第33回光学シンポジウム講演募集

期 日：2008年7月3日（木），4日（金）

場 所：東京大学生産技術研究所 An 棟コンベンションホール（東京都目黒区駒場4-6-1）

主 催：日本光学会

参加費：早期申込の場合，日本光学会会員2,000円，応用物理学会・協賛学協会会員・賛助会員4,000円，非会員（一般）6,000円，非会員（学生）1,000円。早

期申込は6/20(金)までの申込に限ります。通常申込の場合、日本光学会会員3,000円、応用物理学会・協賛学協会会員・賛助会員5,000円、非会員(一般)7,000円、非会員(学生)1,000円。

申込方法：第37巻第4号に挟み込みの郵便振替用紙をご利用いただくか、当日現金にてお支払いください。

問合せ先：コニカミノルタオプト(株)S&A事業推進室
白石武嗣

〒192-8505 八王子市石川町2970

電話 042-660-9320 Fax 042-660-9464

E-mail: optsympo33@mirror.ocn.ne.jp

詳細は第37巻第4号の綴じ込み記事、および日本光学会ホームページ(<http://annex.jsap.or.jp/OSJ/>)をご覧ください。

第41回光学センシング技術研究会講演会

第41回研究会では「セキュリティと光波センシング」をテーマに取り上げます。今回は、セキュリティ関連分野における最近の光波センシング技術の応用に関する8件の招待講演を企画しました。また、一般講演論文はセキュリティとの関連のみならず、光波イメージング、センシング技術全般に関する17件のオリジナル論文が発表されます。光波センシングの技術にかかわる皆様、応用技術の開発に従事されている皆様、技術の活用に関心をおもちの皆様に参加を得て活発な議論を展開したいと思いますので、ご参加をお待ちいたします。

日時：2008年6月10日(火) 9:40~17:50

11日(水) 9:40~17:10

場所：東京理科大学神楽坂校舎森戸記念館(東京都新宿区神楽坂4-2-2)

主催：応用物理学会光波センシング研究会

参加費：予約申込(~6/2まで)：一般11,000円(参加費5,000円+論文集6,000円)、学生3,000円。6/3以降：一般13,000円、学生3,000円。意見交換会(6/10)：一般3,000円、学生無料。

支払い方法：銀行振込/郵便振替/当日現金払い。振込は開催後でも結構です。送金先：みずほ銀行三鷹支店普通8144034、郵便振替口座10150-49189111。口座名はすべて「光波センシング技術研究会」。

申込・問合せ先：光波センシング技術研究会事務局(LSTSEC)

〒166-0004 東京都杉並区阿佐谷南3-11-19

電話/Fax 03-3391-8346

E-mail: lstsec@mbp.nifty.com

<http://annex.jsap.or.jp/kohasensing/>

Fax, E-mailでも受け付けます。余裕のある場合は当日参加も可、定員100名。

ナノオプティクス研究グループ第17回研究討論会・第6回プラズモニクスシンポジウム(共同開催)

期日：2008年6月26日(木)~27日(金)

場所：つくば国際会議場(エポカルつくば)

主催：日本光学会ナノオプティクス研究グループ

講演討論内容：一般講演、ショート講演、招待講演を予定。優れた講演には「ナノオプティクス賞」贈呈。

参加費：一般5,000円、学生1,000円

講演申込方法：E-mailにて講演題目、氏名、勤務先、連絡先をお知らせください。

講演申込締切：2008年5月23日(金)

講演予稿締切：2008年6月2日(月)

申込・問合せ先：慶應義塾大学理工学部電子工学科

齋木敏治

〒223-8522 横浜市港北区日吉3-14-1

電話 045-566-1784 Fax 045-566-1529

E-mail: saiki@elec.keio.ac.jp

<http://www.nano-optics.jp/>

International Workshop on "Nonlinear wave-mixing for laser technology"

期日：2008年7月17日(金)、18日(土)

場所：千葉大学VBL会議室(〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33) <http://www.vbl.chiba-u.jp/index-jp.htm>

主催：日本光学会光波シンセシス研究グループ、千葉大学VBL

参加費：1000円(学生500円)

プログラム：

- 7月17日 ① B. Orr, H. Yabai (Macquarie Univ., Australia), "Self-adaptive tunable operation of a narrowband optical parametric oscillator, using a photorefractive reflector"
- ② M. J. Damzen (Imperial College, United Kingdom), "Self-organising lasers and sensors based on dynamic gain gratings"
- ③ T. Omatsu (Chiba Univ.), "High-intense picosecond phase conjugate laser systems"
- ④ K. Kuroda (Univ. Tokyo), "Mid-infrared generation in DAST"
- ⑤ M. Jazbinsek (ETH, Switzerland), "Fast photorefractive in the infrared with ferroelectric $\text{Sn}_2\text{P}_2\text{S}_6$

(SPS)” ⑥ T. Komatsu (Nagaoka Univ. of Technology), “Laser patterning of nonlinear optical crystal-lines in glass” ⑦ M. Yoshimura, Y. Mori, Y. Kaneda, Y. Kitaoka and T. Sasaki (Osaka Univ.) “Advanced DUV sources by using CsLiB₆O₁₀ crystal”

7月18日 バイオイメージングに関するセッションを予定。

問合せ先： 千葉大学工学部情報画像工学科 尾松孝茂

電話 043-290-3477

E-mail: omatsu@faculty.chiba-u.jp

「CCD/CMOS カメラ信号処理技術入門」技術講座

日 時： 2008年6月20日(金) 10:00~17:00

場 所： 機械振興会館別館4階 (東京都港区芝公園3-5-22)

講 師： 鈴木茂夫氏 (イーエスティー)

主 催： (社)日本オプトメカトロニクス協会

協 賛： 日本光学会ほか

参加費： 1名につき、一般38,850円、正会員25,200円、賛助会員30,450円、協賛34,650円 (テキスト・消費税を含む)。

定 員： 30名

申込期限： 2008年6月13日(金)

問合せ先： (社)日本オプトメカトロニクス協会

電話 03-3435-9321 Fax 03-3435-9567

E-mail: info@joem.or.jp <http://www.joem.or.jp>

「光機器の光学」技術講座

日 時： 2008年6月17日(火)、18日(水)、24日(火)、25日(水)、7月1日(火)、2日(水)、8日(火)、9日(水) (計8日間)、10:30~16:30

場 所： 機械振興会館別館4階 (東京都港区芝公園3-5-22)

講 師： 山本公明氏 (KM オプトラボ/元オリンパス)

主 催： (社)日本オプトメカトロニクス協会

協 賛： 日本光学会ほか

参加費： 1名につき、一般162,750円、正会員105,000円、賛助会員130,200円、協賛147,000円 (テキスト・消費税を含む)。

定 員： 30名

申込期限： 2008年6月10日(火)

問合せ先： (社)日本オプトメカトロニクス協会

電話 03-3435-9321 Fax 03-3435-9567

E-mail: info@joem.or.jp <http://www.joem.or.jp>

日本光学会 *news* の掲載申込み先：

〒184-8588 東京都小金井市中町2-24-16 (4号館420号室)

東京農工大学大学院共生科学技術研究院 物理システム工学専攻 芦原 聡

電話/Fax 042-388-7536 E-mail: ashihara@cc.tuat.ac.jp

なお、掲載申込みは原則として発行日(10日)から2か月前の15日まで、開催日が1~10日の場合は、開催日の3か月前の15日までをお願いします。

掲載にあたっては、「日本光学会 *news*」および「光学関連会合予定」の掲載基準 (<http://annex.jsap.or.jp/OSJ/kogaku/news-keisai.html>) をご確認ください。

日本光学会平成20年度幹事(*常任幹事)

幹事長：	谷田貝豊彦* (宇都宮大)	
副幹事長：	渡辺 正信* (産総研)	志村 努* (東京大)
前幹事長：	伊東 一良 (大阪大)	
庶務幹事：	芦原 聡* (東京農工大)	菅谷 綾子* (ニコン)
	竹内 誠二* (キャノン)	津村 徳道* (千葉大)
	厚海 広道* (リコー)	飯塚 隆之* (HOYA)
	宮澤 佳苗* (伊東光学工業)	安田 晋* (富士ゼロックス)
	渡邊恵理子* (日本女子大)	
『光学』編集幹事：	梅田 倫弘* (東京農工大)	山口 雅浩 (東工大)
『Optical Review』編集・出版幹事：	植田 憲一* (電通大)	佐々木修己* (新潟大)
国際協力幹事：	中川 清 (香川大)	津田 裕之 (慶應義塾大)
産学協力幹事：	石樽 崇明 (慶應義塾大)	藤川 久喜 (豊田中研)
将来問題担当幹事：	谷川ゆかり (産総研)	戸田 泰則 (北海道大)
電子化担当幹事：	森野 剛志 (東芝)	河野 裕之 (三菱電機)
事業・企画担当幹事：	岡田 訓明 (シャープ)	佐藤 俊一 (東北大)
	佐藤 雅之 (北九州市立大)	白石 武嗣 (コニカミノルタオプト)
	杉田 篤史 (静岡大)	忠永 修 (NTT)
	西畑 純弘 (富士フイルム)	二瓶 裕之 (北海道医療大)
	松尾 繁樹 (徳島大)	大出 寿 (オリンパス)
	大八木康之 (大日本印刷)	岡本 卓 (九州工大)
	小野 浩司 (長岡技大)	式井 慎一 (松下電器)
	高橋 信明 (防衛大)	高原 淳一 (大阪大)
	高松 衛 (富山大)	陳 軍 (東京工芸大)
